

中村設計新聞

○はじめに



今月の土曜研修では京都市北区にある京都北山杉の里総合センターに行きました。この施設は北山杉の振興を目的とした建物で、北山杉・北山丸太に関するさまざまな交流、PR活動をさんだんに使用した建物でした。



内装にも北山杉満載！



樹齢20年ほどの北山杉



北山杉の里総合センター

今回は北山杉に関する植樹、植林、加工製造、利用実績などのレクチャーを受け、実際に北山杉の皮むきと磨き作業を体験しました。

第三十二号

十月二十日(土)晴れ

今月の土曜研修は京都北山杉の里総合センターに行き、北山杉、北山丸太に関するレクチャー、及び、実際の北山杉の皮むき体験をしました。

へ北山杉から北山丸太へ

北山杉は室町時代頃からつくり始められたといわれており、産地としては京都市街の北山地方、現在の京都市北区中川を中心とする地域が代表的です。

北山丸太ができるまで

- 約30年！
- ① 穂摘み……親木から穂木を摘む
 - ② 挿し穂……苗木に穂木を挿木する
 - ③ 植林……苗木を山に植林
 - ④ 下草刈り……植林後六～七年は毎年行う
 - ⑤ 枝打ち……枝を幹に沿って打ち落とす
 - ⑥ 枝締め……伐採前、枝打ちし太りを抑える
 - ⑦ 伐採……伐採後は葉枯らし乾燥を行う
 - ⑧ 皮むき……樹皮をむき、背割りを入れる
 - ⑨ 天日乾燥……天日にさらし乾燥させる
 - ⑩ 磨き作業……表面を磨き、光沢を引き出す
 - ⑪ 完成！

北山杉の育成は、親木から穂摘みするところから始まり、植林してから六、七年後から枝打ち・枝締め・皮むき作業といった北山丸太への加工に移行していきます。こういった工程のなかでも、特に重要な作業である「枝打ち」は、職人が杉の幹にかけたはしごを登り、手作業で枝を落としていく力仕事です。実際に使用されているはしごを見ても、実際に使ったが、幅三十センチメートル程度と細く、よくしなるはしごで驚きました。杉の幹にかけるものなのでしなった方が作業がしやすいのだそうです。

○体験レポート①

へ北山丸太の皮むきに挑戦

一年で一番天気が良いといわれた日、「みやこ杉木」に認定されている北山杉を勉強するため京都北山杉の里総合センターに行きました。建物内は北山杉を一分に使用してありとても温かみのある空間でした。

午前中は北山杉の歴史や製材方法等についてのDVDを観賞し職員の方から説明もして頂きました。

午後からは、工場にて実際に皮むきや磨きの体験をしました。約六メートルある北山杉を元と末に二方向から樹皮をむいていきます。残った薄皮を地道に取り除いた後、京都市中川区近くの「菩提の滝」で採取した砂で磨くツルツルに！（現在は水圧やたわし状のもので磨くのが主流となっている）全て手作業で行い、その大変さに驚きました。

一日を通して建材として使用するための職人さん達の手間や歴史等を深く学ぶ事ができました。

西村 亮人

○体験レポート②

へ北山杉製ティッシュボックス

皮むき体験の後は、北山杉でティッシュボックスを作成。のこぎりで板を切っている時の、杉のいい香りが印象的でした。最後に「北山杉」の焼印を押し完成♪よい記念品になりました。

滝根 世斎



いい香りがします～



上手に出来ました♪

○まとめ

後日の所員アンケートでは北山杉が製品化される過程への理解や、こういった伝統技術を残していくために必要な対策や施策が必要だとの意見が多くありました。

今回の体験を通して、机上では分からない北山杉の製作工程や材質を体感し理解することが出来たと思います。お世話になった方々、ありがとうございます



洗って！



1本の丸太



製材完了！



みんなで皮むき



皆で皮むき&磨き作業をした北山丸太と一緒に記念写真★(筋肉痛になった者も多数…)